

2023年



【2023年】保育現場白書

子ねくとラボ（株式会社明日香）

はじめに

本白書では、当社が発表した調査のうち、「保育現場」に関する内容を取りまとめたものとなります。

「保育士業務」についてや、社会時勢に合わせ「物価高騰」「マスク」など、様々な角度で調査を行なっております。

本白書が、保育現場や業界全体を改善する参考となれば幸いです。

本白書にて掲載している調査

調査①：2023年2月10日発表

保育士の行事業務の負担に関する実態調査

調査②：2022年12月26日発表

物価高騰・円安に伴う保育への影響に関する実態調査

調査③：2022年9月30日発表

【定点調査2022】マスク着用による保育の変化にまつわる調査

調査概要

概要

保育士の行事業務の負担に関する実態調査

調査方法

IDEATECHが提供するリサーチPR「リサピー®」の企画によるインターネット調査

調査期間

2023年1月19日～同年1月20日

有効回答

イベントや行事を行う保育園に勤める保育士108名

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。

保育士の行事業務の負担に関する実態調査

TOPIC 01 行事業務に関して、**約8割**が「精神的な負担」を実感

TOPIC 02 **半数以上**から「休日も仕事のことを考えていた」や「行事練習が多く、行事のための保育になっている」との声が浮上

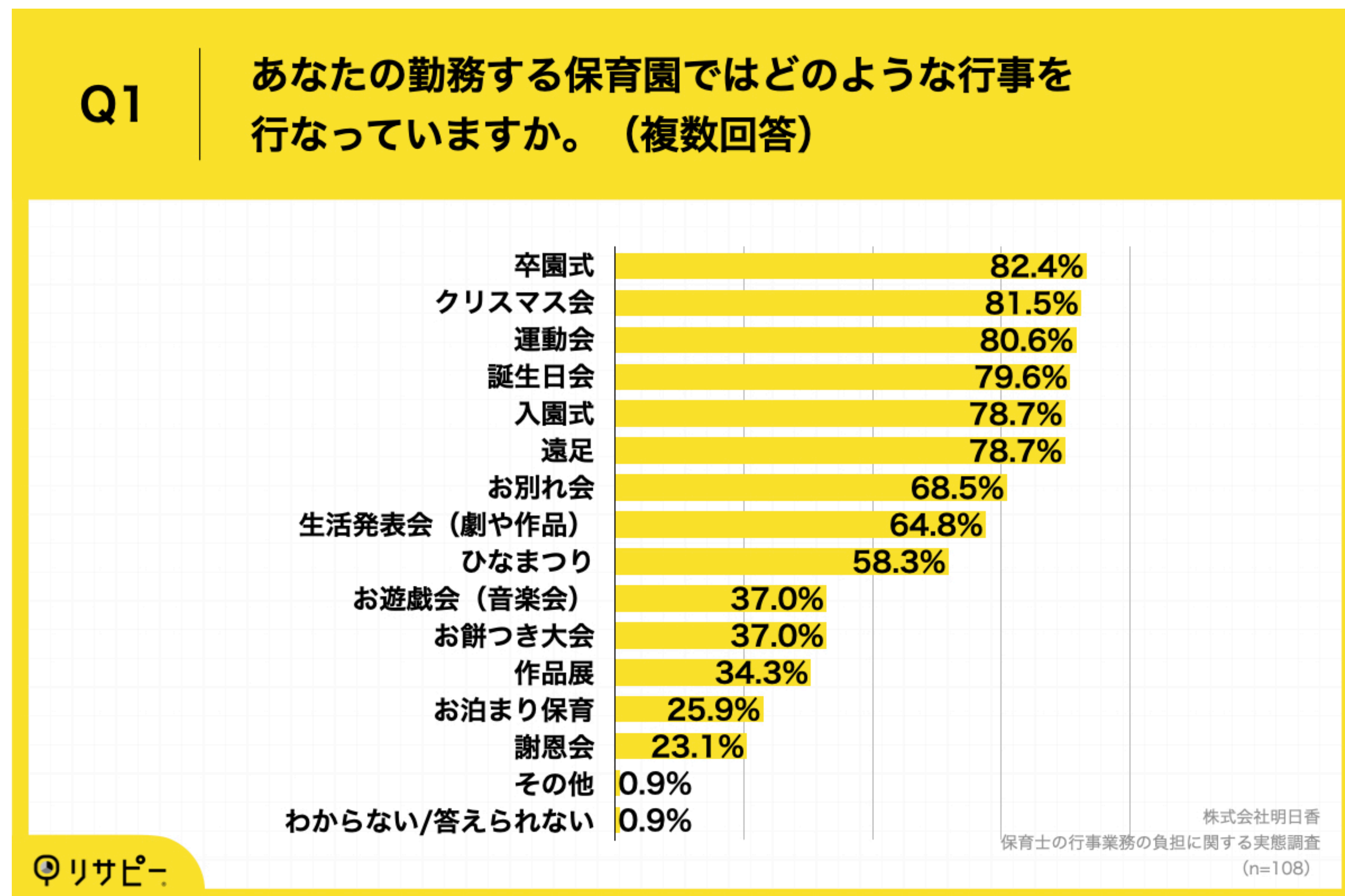
TOPIC 03 行事業務に関して、**7割以上**が「身体的な負担」を実感、**53.8%**が「残業や持ち帰りの仕事があった」と回答

SUMMARY



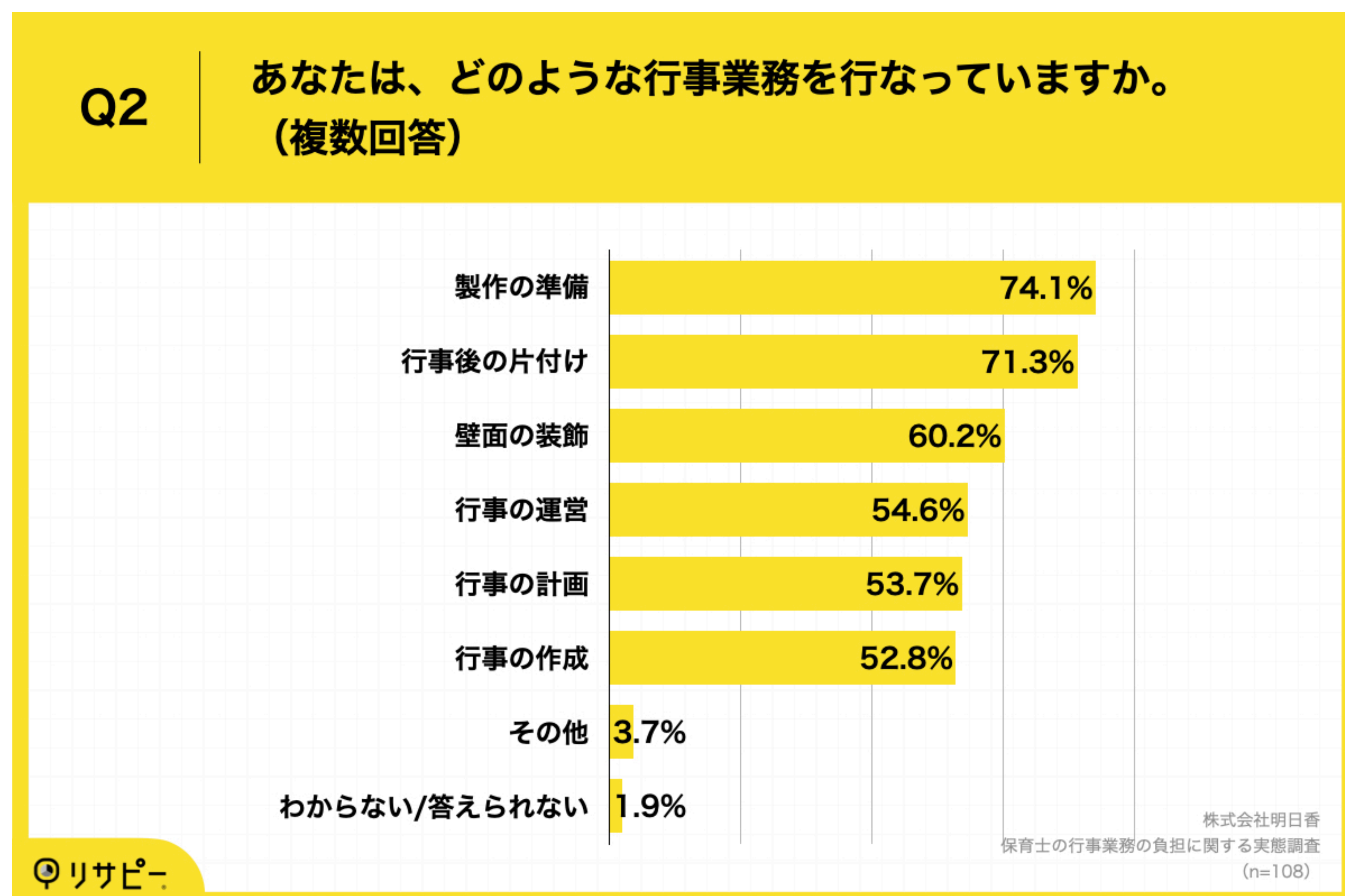
■保育園での実施行事、第1位「卒園式」、第2位「クリスマス会」

「Q1.あなたの勤務する保育園ではどのような行事を行なっていますか。（複数回答）」（n=108）と質問したところ、「卒園式」が82.4%、「クリスマス会」が81.5%、「運動会」が80.6%という回答となりました。



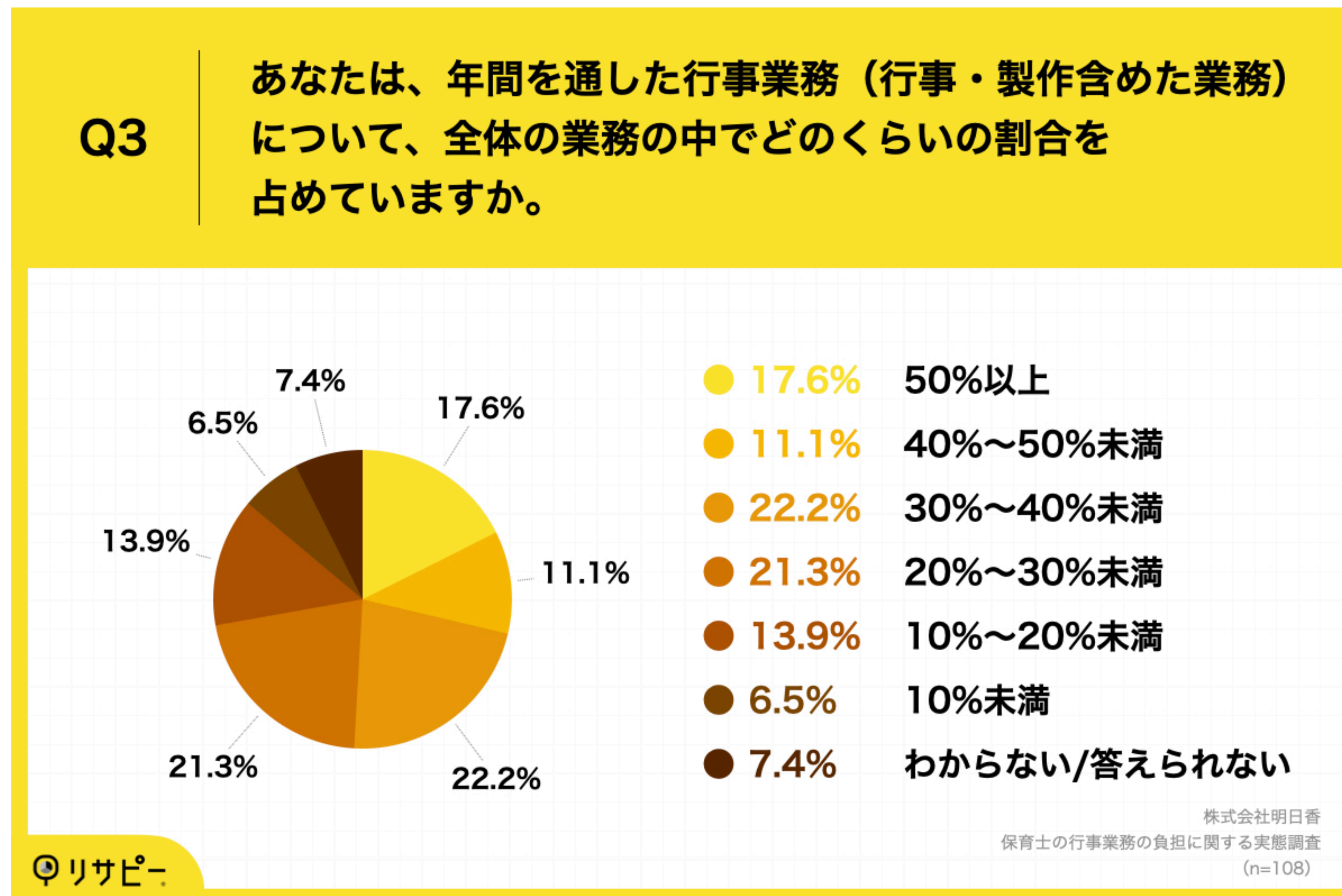
■保育士の行事に関する業務、7割以上が「製作の準備」や「行事後の片付け」と回答

「Q2.あなたは、どのような行事業務を行なっていますか。（複数回答）」（n=108）と質問したところ、「製作の準備」が74.1%、「行事後の片付け」が71.3%、「壁面の装飾」が60.2%という回答となりました。



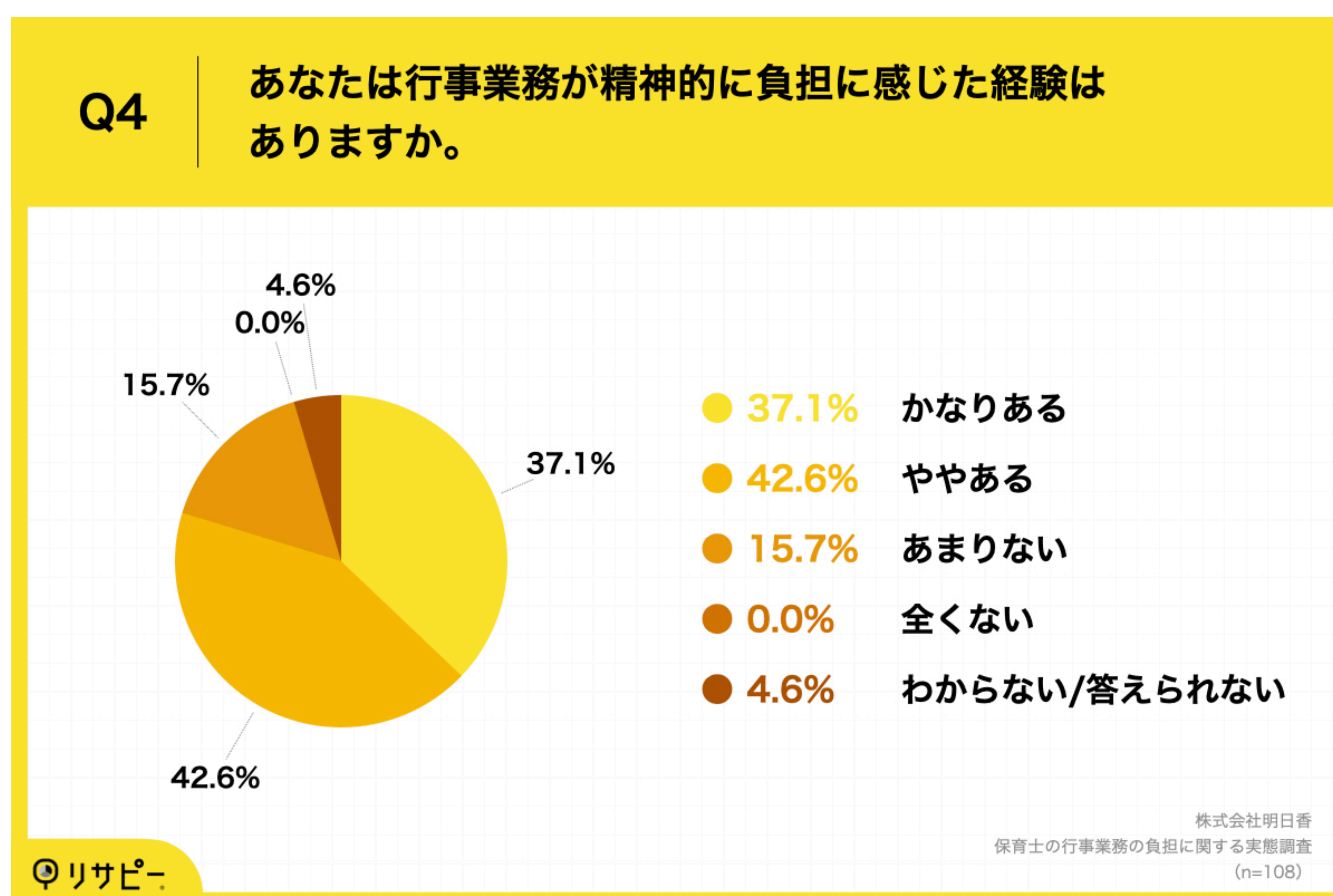
■全体業務の中で行事業務の割合は、半数以上が「30%以上」と回答

「Q3.あなたは、年間を通した行事業務（行事・製作含めた業務）について、全体の業務の中でどのくらいの割合を占めていますか。」（n=108）と質問したところ、「30%～40%未満」が22.2%、「40%～50%未満」が11.1%という回答となりました。



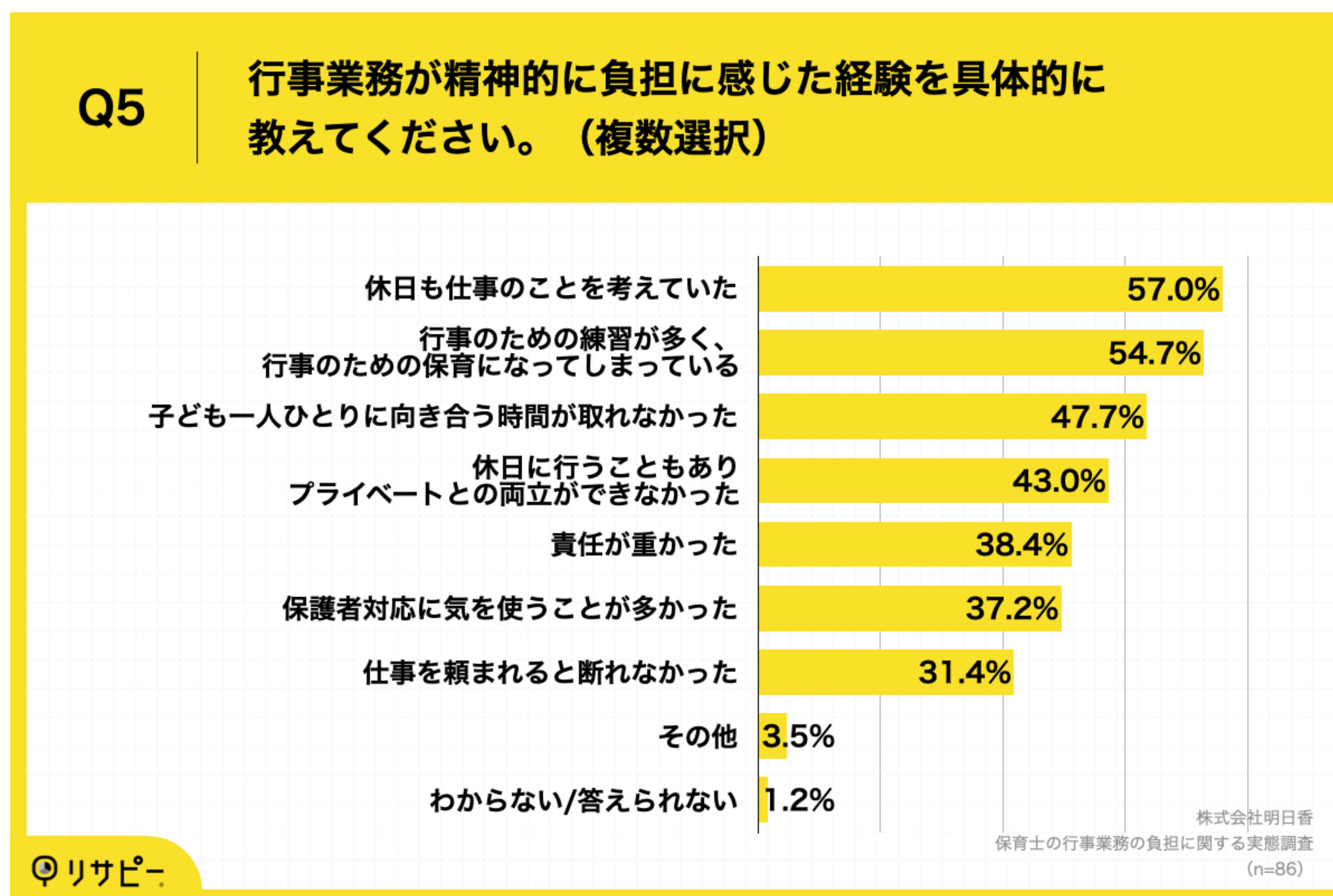
■行事業務に関して、約8割の保育士が「精神的な負担」を実感

「Q4.あなたは行事業務が精神的に負担に感じた経験はありますか。」（n=108）と質問したところ、「かなりある」が37.1%、「ややある」が42.6%という回答となりました。



■精神的負担のエピソード、「休日も仕事のことを考えていた」(57.0%)や「行事のための練習が多く、行事のための保育になってしまっている」(54.7%)

Q4で「かなりある」「ややある」と回答した方に、「Q5.行事業務が精神的に負担に感じた経験を具体的に教えてください。(複数選択)」(n=86)と質問したところ、「休日も仕事のことを考えていた」が57.0%、「行事のための練習が多く、行事のための保育になってしまっている」が54.7%、「子ども一人ひとりに向き合う時間が取れなかった」が47.7%という回答となりました。



■他にも「大きな行事がコロナや天候で中止になりかけ、保護者からのクレームがたくさん来た」や「いろんな先生の方向性の違いがあり、意見をまとめることが難しい」などで負担を実感

Q4で「かなりある」「ややある」と回答した方に、「Q6.Q5で回答した以外に、行事業務が精神的に負担に感じた経験があれば、具体的なエピソードを自由に教えてください。(自由回答)」(n=86)と質問したところ、「大きな行事がコロナや天候で中止になりかけ、保護者からのクレームがたくさん来た」や「いろんな先生の方向性の違いがあり、意見をまとめることが難しい」など56の回答を得ることができました。

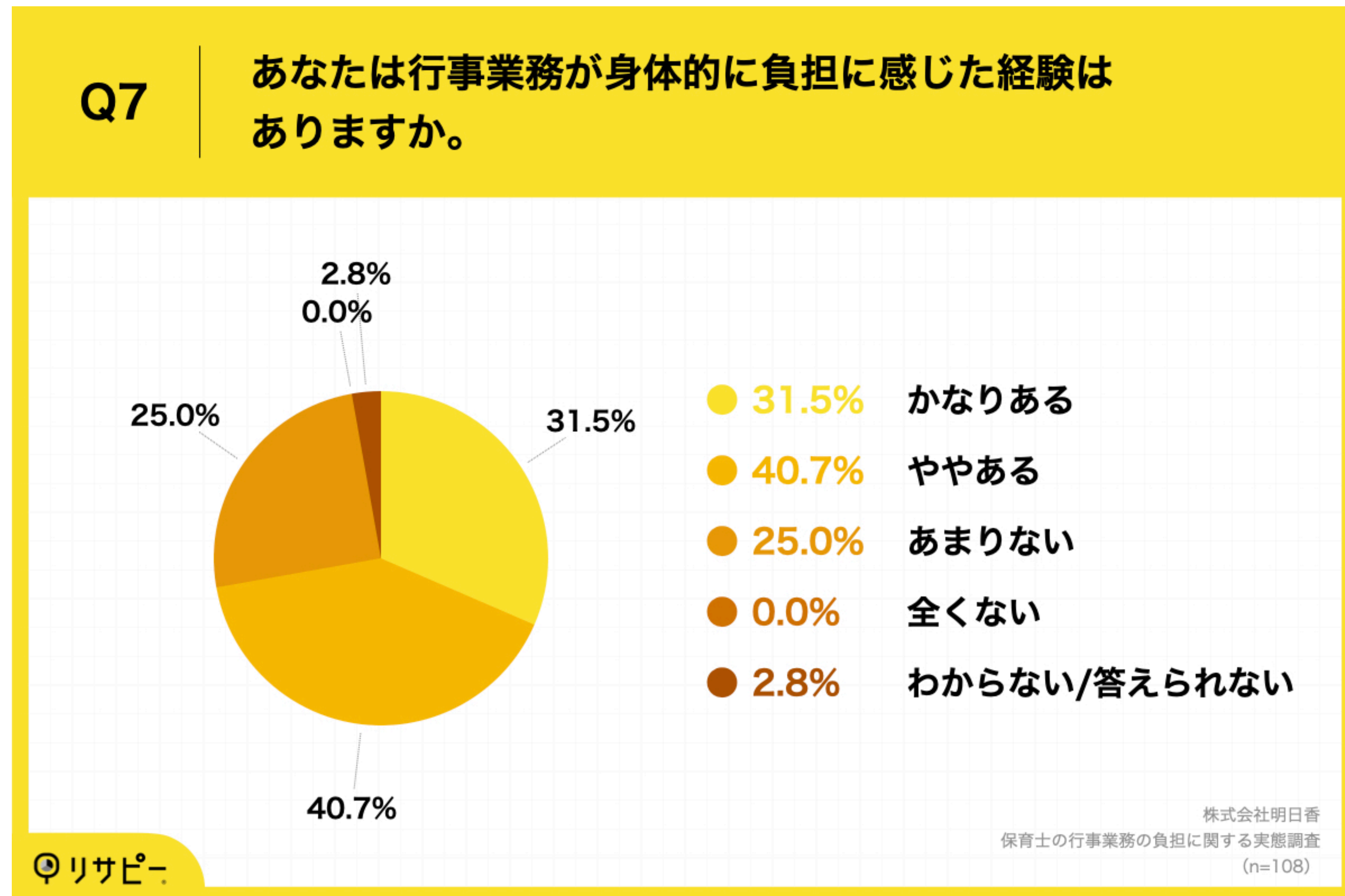
<自由回答・一部抜粋>

- ・32歳：コロナの感染症対策をした行事にするのが難しかった。
- ・40歳：作品展や生活発表会の内容は、いろんな先生の方向性の違いがあり、意見をまとめることが難しい。上の先生には意見が言いづらい雰囲気もある。
- ・28歳：園長が急にやり直しなどを求めたり、前年度を上回るレベルのものを求められる。
- ・41歳：何をするか、何を作るかなどを決めるまでが何より大変でプレッシャーだった。
- ・36歳：大きな行事と月の誕生日会の担当が、重なると気持ちが落ち着かずストレスだった。
- ・41歳：オペレッタの本など、行事に必要な物を個人で購入しなくてはいけない。
- ・34歳：大きな行事がコロナや天候で中止になりかけ、保護者からのクレームがたくさん来た。
- ・35歳：日常の業務が多くそれだけでも日々の中では消化しきれず残って仕事をしているのに、行事が重なると残業をしないと回らないため体力的にも精神的にも負担となっている。

■行事業務に関して、7割以上の保育士が「身体的な負担」を実感

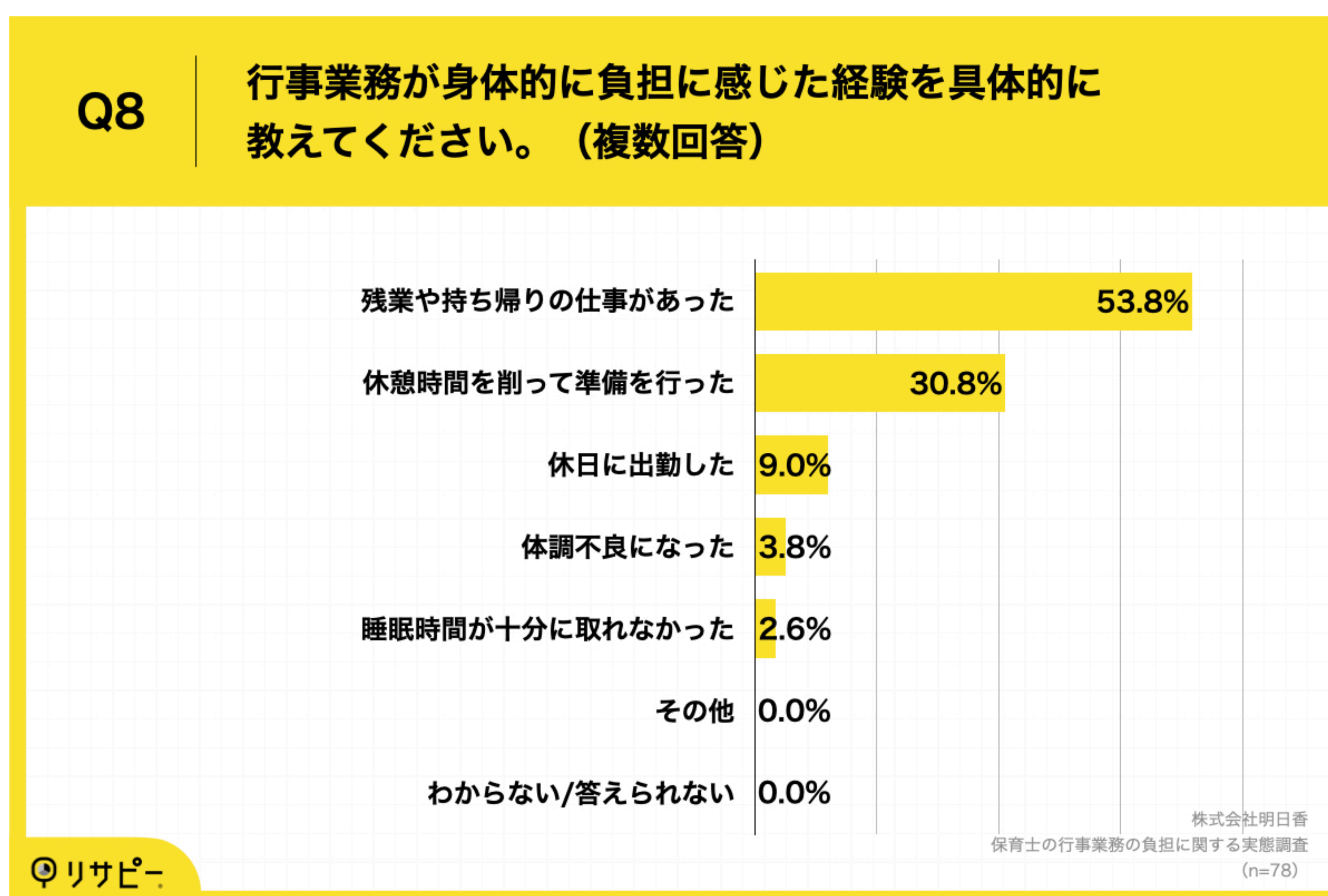
「Q7.あなたは行事業務が身体的に負担に感じた経験はありますか。」

(n=108) と質問したところ、「かなりある」が31.5%、「ややある」が40.7%という回答となりました。



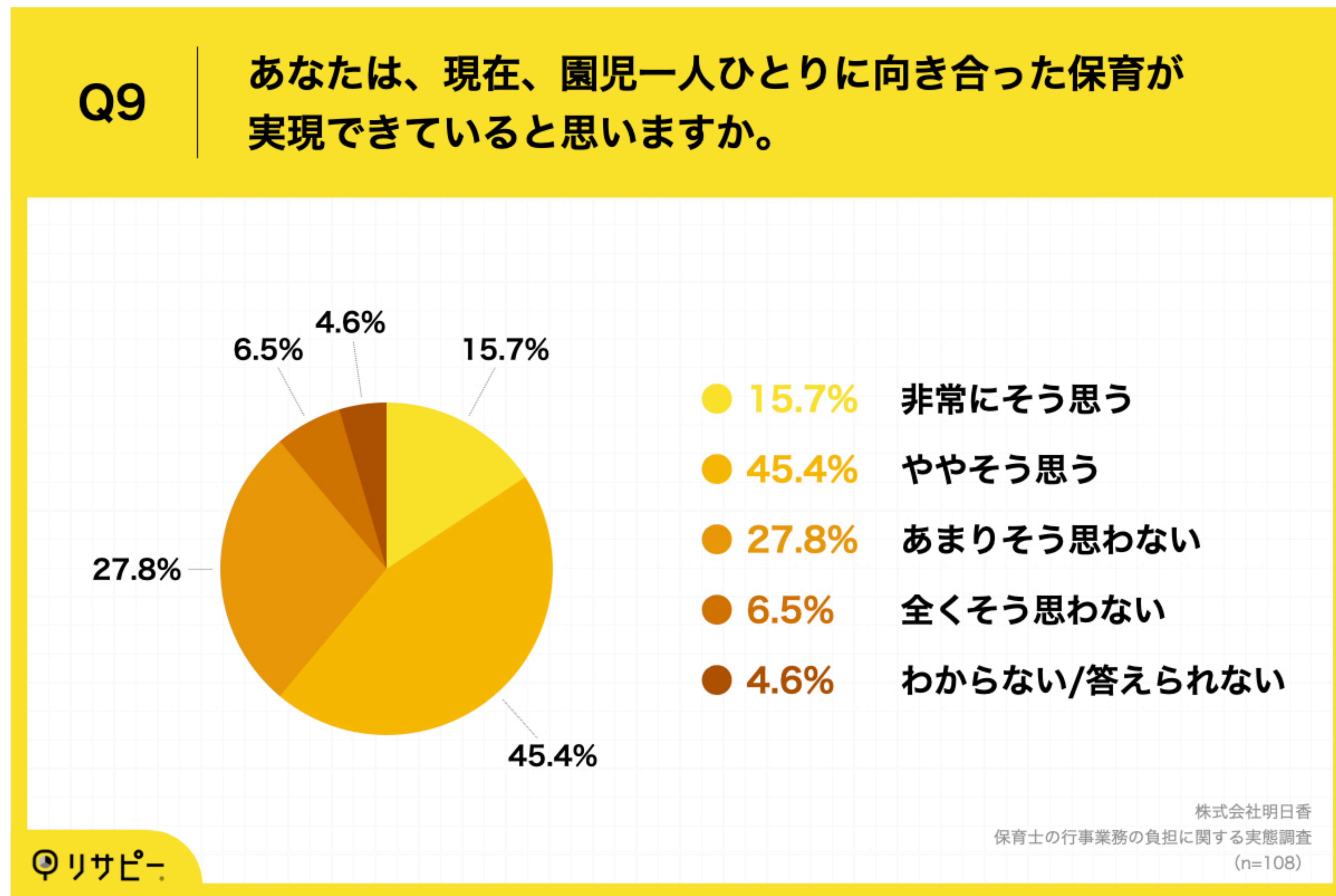
■身体的負担として、53.8%が「残業や持ち帰りの仕事があった」と回答

Q7で「かなりある」「ややある」と回答した方に、「Q8.行事業務が身体的に負担に感じた経験を具体的に教えてください。(複数回答)」(n=78) と質問したところ、「残業や持ち帰りの仕事があった」が53.8%、「休憩時間を削って準備を行った」が30.8%という回答となりました。



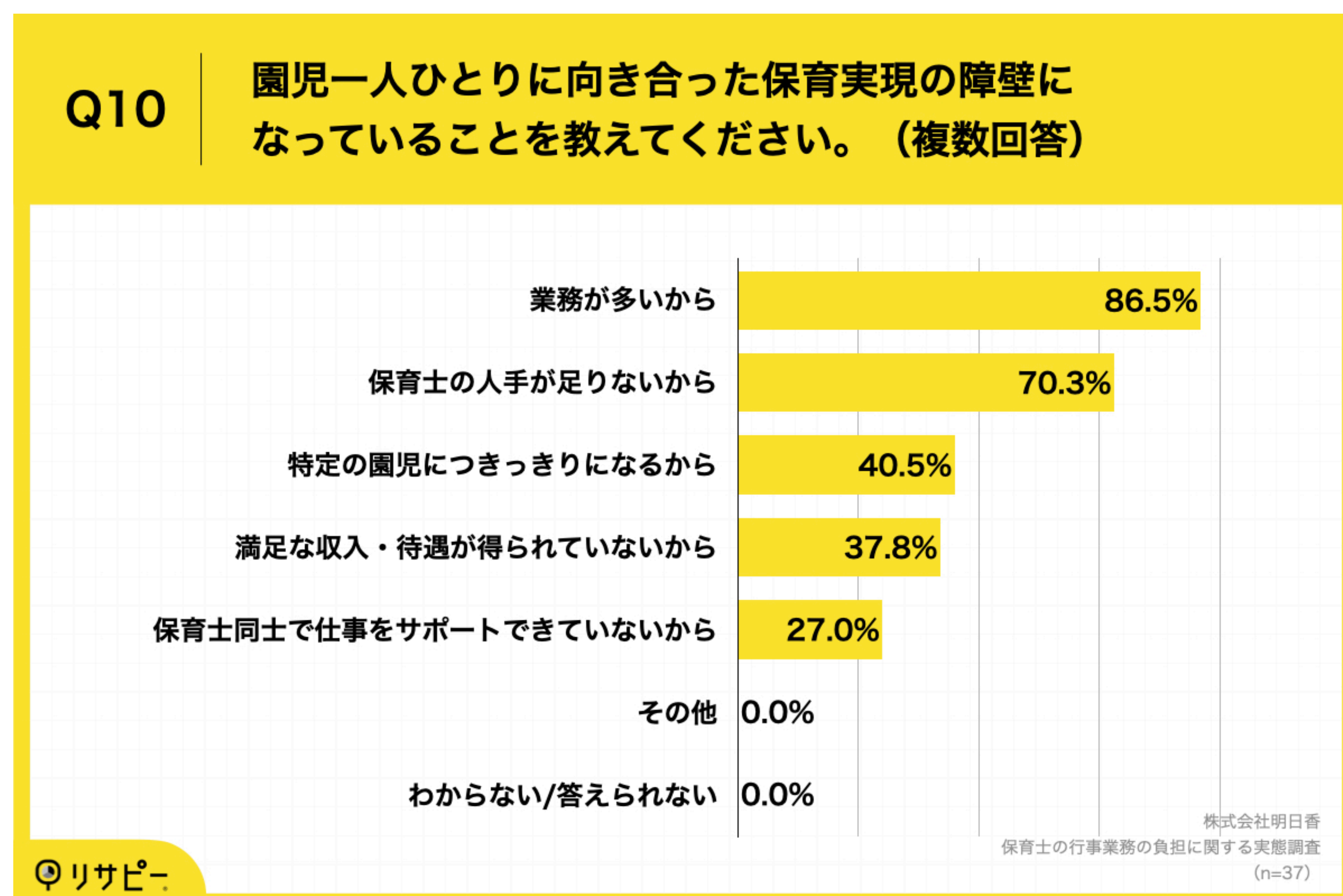
■約3人に1人の保育士が「園児一人ひとりに向き合った保育」ができていないと回答

「Q9.あなたは、現在、園児一人ひとりに向き合った保育が実現できていると思いますか。」（n=108）と質問したところ、「あまりそう思わない」が27.8%、「全くそう思わない」が6.5%という回答となりました。



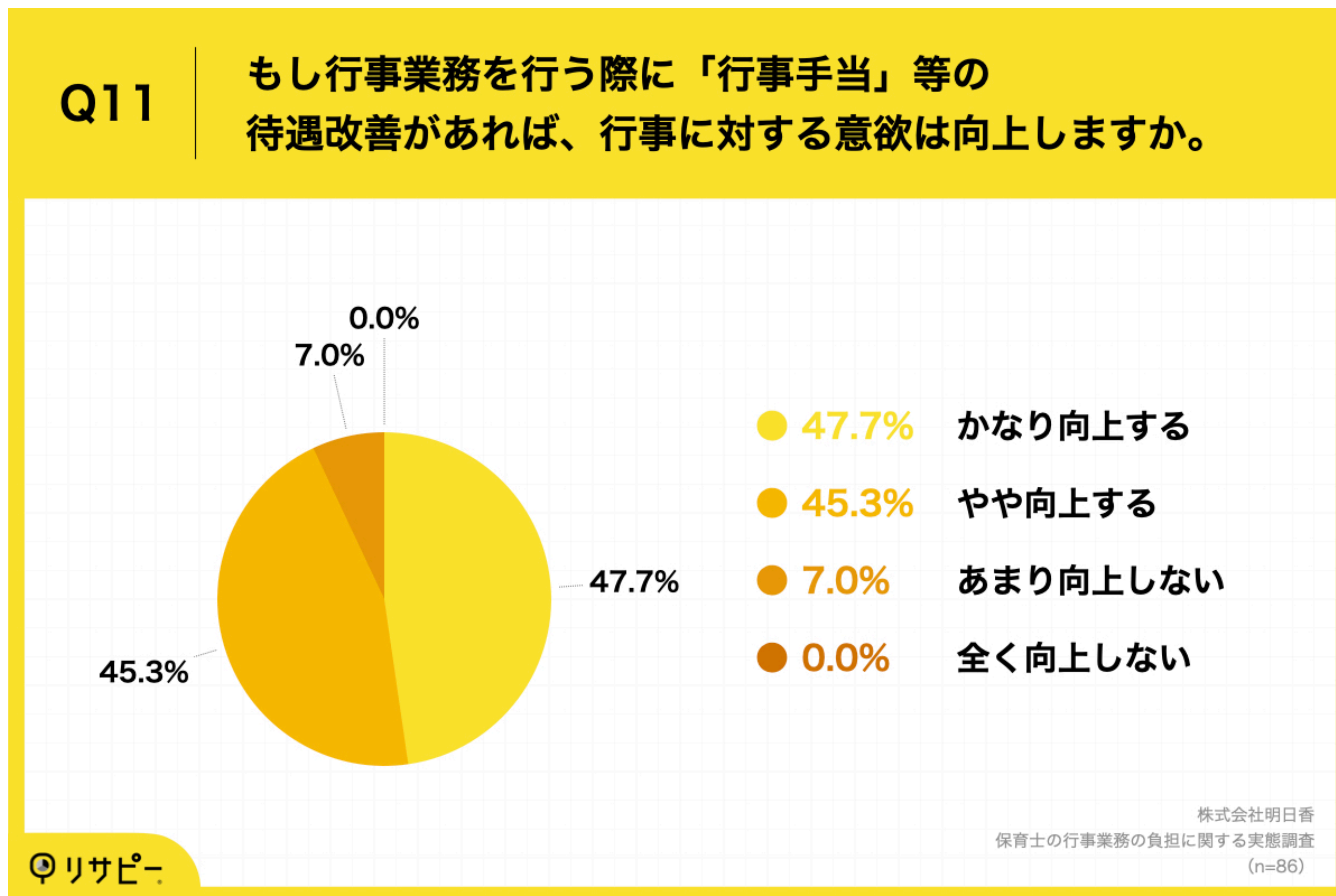
■園児に向き合う保育実現への障壁、「業務が多いから」が86.5%で最多

Q9で「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答した方に、「Q10.園児一人ひとりに向き合った保育実現の障壁になっていることを教えてください。（複数回答）」（n=37）と質問したところ、「業務が多いから」が86.5%、「保育士の人手が足りないから」が70.3%、「特定の園児につきっきりになるから」が40.5%という回答となりました。



■「行事手当」等の待遇改善により、93%の保育士が「行事に対する意欲は向上する」と回答

Q4で「かなりある」「ややある」と回答した方に、「Q11.もし行事業務を行う際に「行事手当」等の待遇改善があれば、行事に対する意欲は向上しますか。」(n=86)と質問したところ、「かなり向上する」が47.7%、「やや向上する」が45.3%という回答となりました。



今回は、イベントや行事を行う保育園に勤める保育士108名を対象に、保育士の行事業務の負担に関する実態調査を実施しました。

保育園における行事業務に関して、「休日も仕事のことを考えていた」や「行事のための練習が多く、行事のための保育になってしまっている」との声が多数挙がり、約8割の保育士が「精神的な負担」を実感していることが判明しました。園によっては、上司が急にやり直しを求めたり、行事に必要な物に対し個人での購入が求められているような実態もあるようで、コロナ禍においては「感染症対策をした行事にするのが難しかった」という新たなプレッシャーも追加されたようです。また、全体業務の中の行事業務の割合が「30%以上」を占めている保育士が半数以上いることもわかり、結果として、残業や持ち帰りの仕事などで、7割以上が「身体的な負担」も実感していることが明らかになりました。

園児や保護者にとって、行事は園生活の思い出となる重要な役割を果たしています。また、「保育所保育指針解説（厚生労働省、平成30年2月※）」においては、行事は「保育所と家庭での日常の生活に変化と潤いがもてるように、子どもの自主性を尊重し、日々の保育の流れに配慮した上で、ねらいと内容を考える。」とされています。ただその一方で、これらの行事が「園児一人ひとりに向き合った保育」の実現に繋がってはいない実態が浮き彫りとなりました。主な理由として、保育士への業務負荷が課題であると考えられ、身体的だけではなく精神的にも負担が深刻化しているようです。保育士の心身の健康は保育の質を左右する他に、心身の安全性が確保できない労働環境が続くと離職率が高まる懸念もあり、人材不足はさらに深刻化するでしょう。さまざまな業種において健康経営が叫ばれる近年においては、保育園においても健康経営に取り組む必要があるといえるでしょう。保育士が働きやすい環境作りが叶うことで、保育園の行事はより園児に向き合った保育に繋がりがやすくなるのではないのでしょうか。

※厚生労働省 「保育所保育指針解説」

<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf>

調査概要

概要

物価高騰・円安に伴う保育への影響に関する実態調査

調査方法

IDEATECHが提供するリサーチPR「リサピー®」の企画によるインターネット調査

調査期間

2022年12月5日～同年12月9日

有効回答

保育士107名

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。

物価高騰・円安に伴う 保育への影響に関する実態調査

TOPIC 01

保育士の**55.1%**が「円安や物価高騰による保育の質への影響」を実感

TOPIC 02

影響を感じる場面として、
約半数が「教材・制作物素材の買い控え」「園内の節電」と回答

TOPIC 03

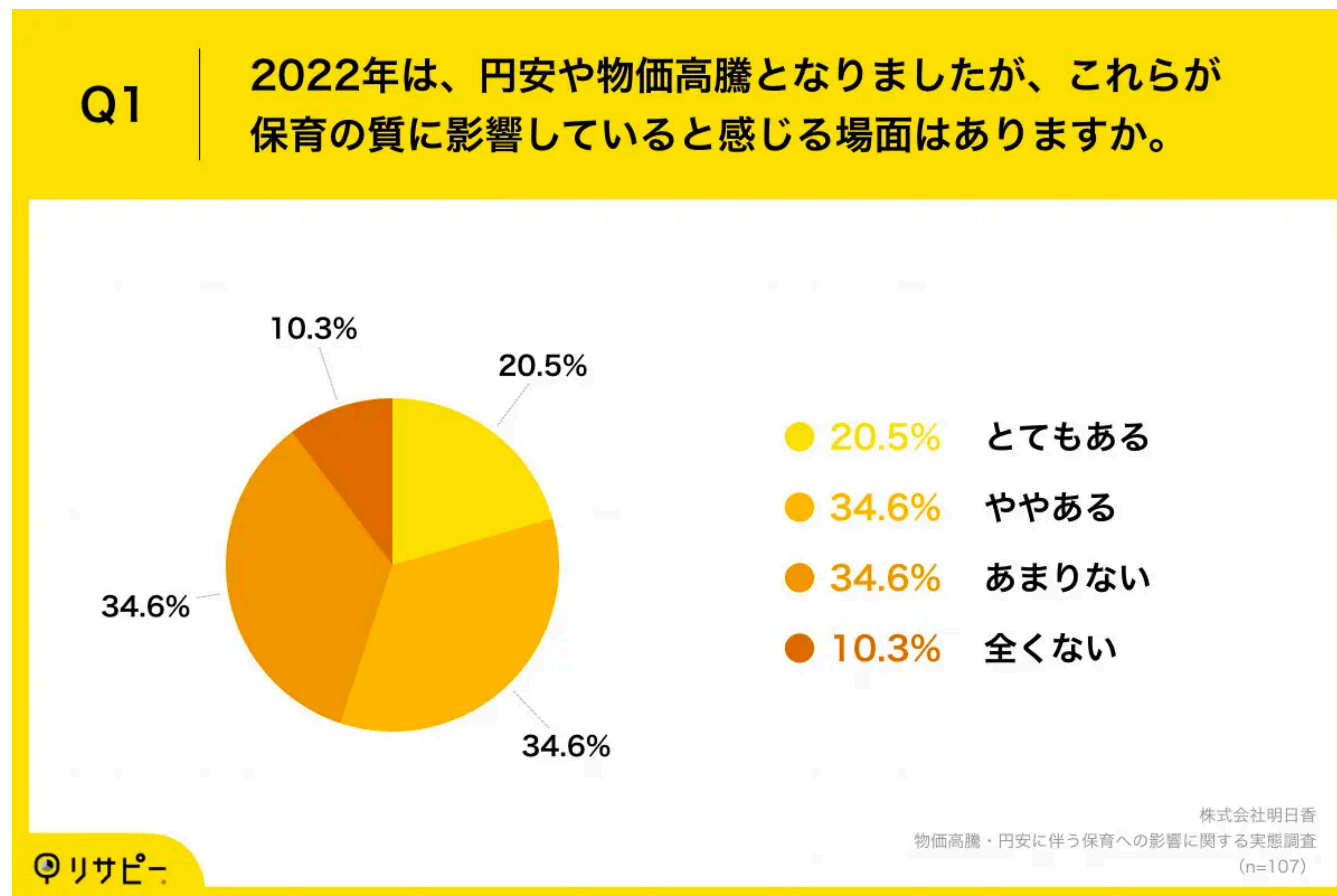
「食材の高騰で給食メニューが変わった」や
「猛暑の時でも節電呼びかけ」で影響を感じたとの声も

SUMMARY



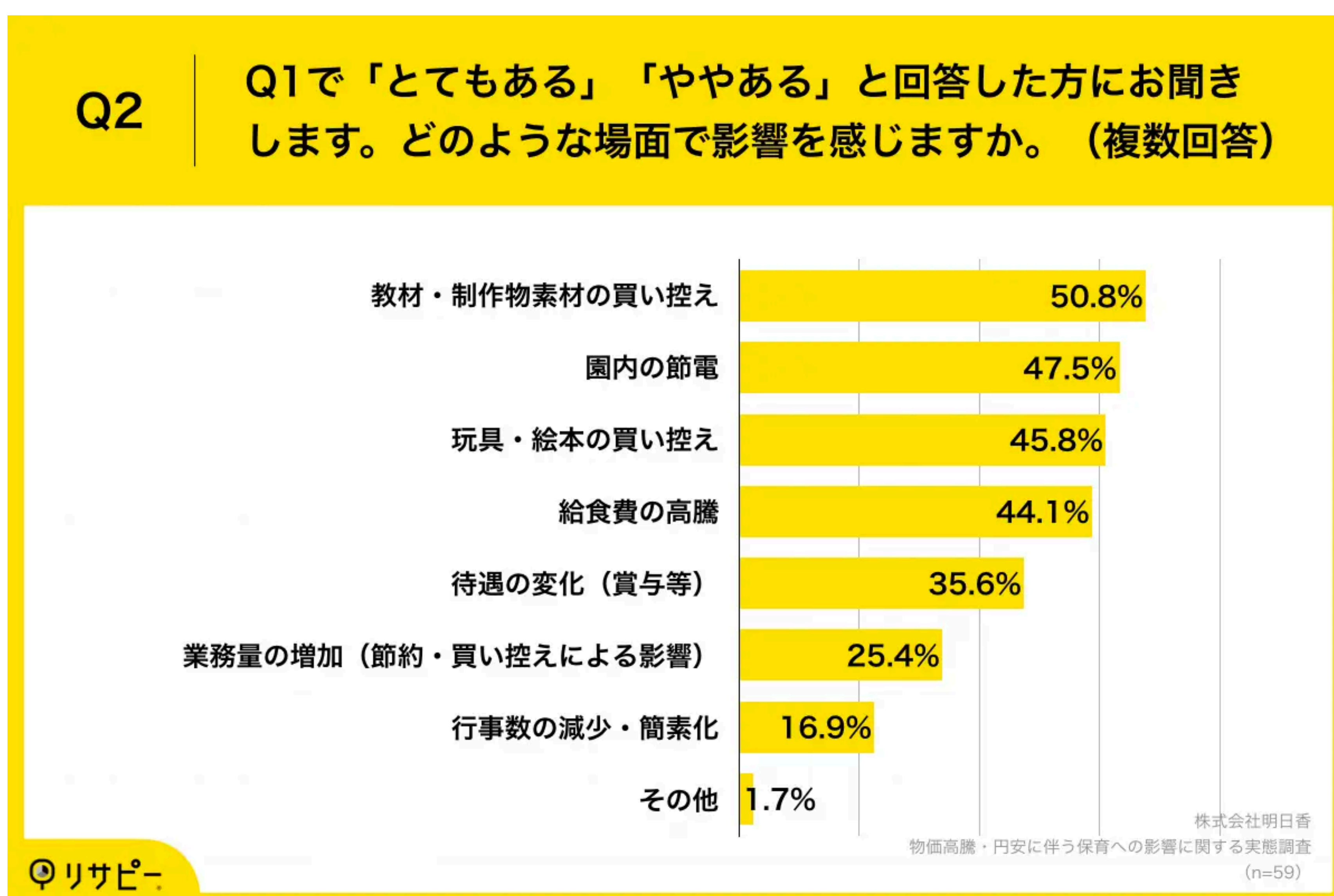
■保育士の55.1%が「円安や物価高騰による保育の質への影響」を実感

「Q1.2022年は、円安や物価高騰となりましたが、これらが保育の質に影響していると感じる場面はありますか。」(n=107)と質問したところ、「とてもある」が20.5%、「ややある」が34.6%という回答となりました。



■影響を感じる場面として、約半数が「教材・制作物素材の買い控え」「園内の節電」と回答

Q1で「とてもある」「ややある」と回答した方に、「Q2.どのような場面で影響を感じますか。(複数回答)」(n=59)と質問したところ、「教材・制作物素材の買い控え」が50.8%、「園内の節電」が47.5%、「玩具・絵本の買い控え」が45.8%という回答となりました。



■「食材の高騰で給食メニューが変わった」や「猛暑の時でも節電呼びかけ」で影響を感じたとの声も

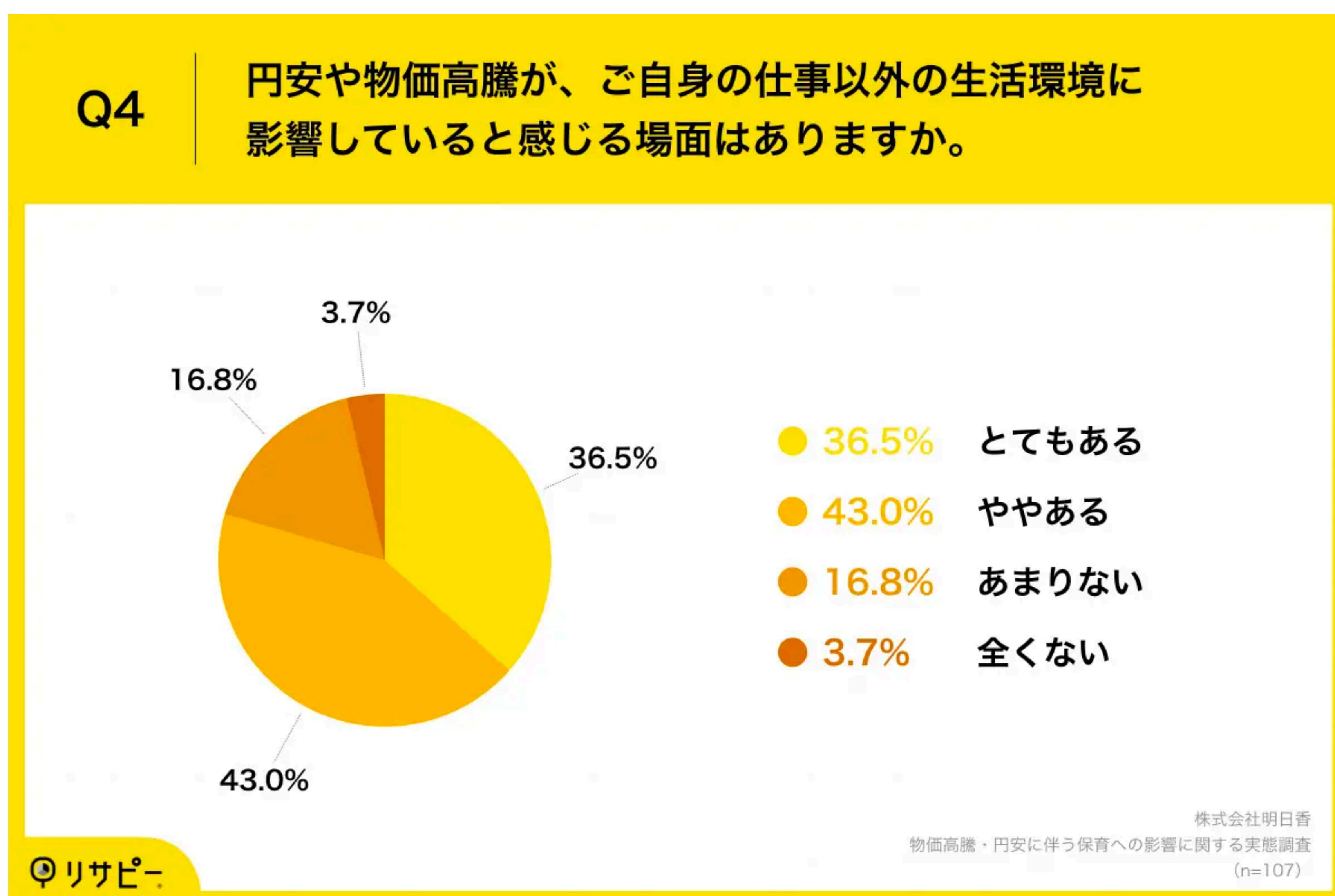
Q1で「とてもある」「ややある」と回答した方に、「Q3.どのような場面で影響を感じますか。自由に教えてください（自由回答）」（n=59）と質問したところ、「食材の高騰で給食メニューが変わった」や「猛暑の時でも節電呼びかけ」など46の回答を得ることができました。

<自由回答・一部抜粋>

- ・44歳：食材の高騰で給食メニューが変わった。
- ・31歳：猛暑の時でも節電呼びかけ。
- ・27歳：物品購入の制限がきつくなった。
- ・36歳：職員の昼食代が上がったり、用品もまとめ買いをした方が安いとのことですぐに買ってもらえない。
- ・44歳：消耗品（ペーパー類やゴミ袋など）を節約して使う。
- ・43歳：資材節約への意識。
- ・42歳：現在の給食費では献立が限られてしまう。
- ・34歳：レンタルの布団代の値上げ。

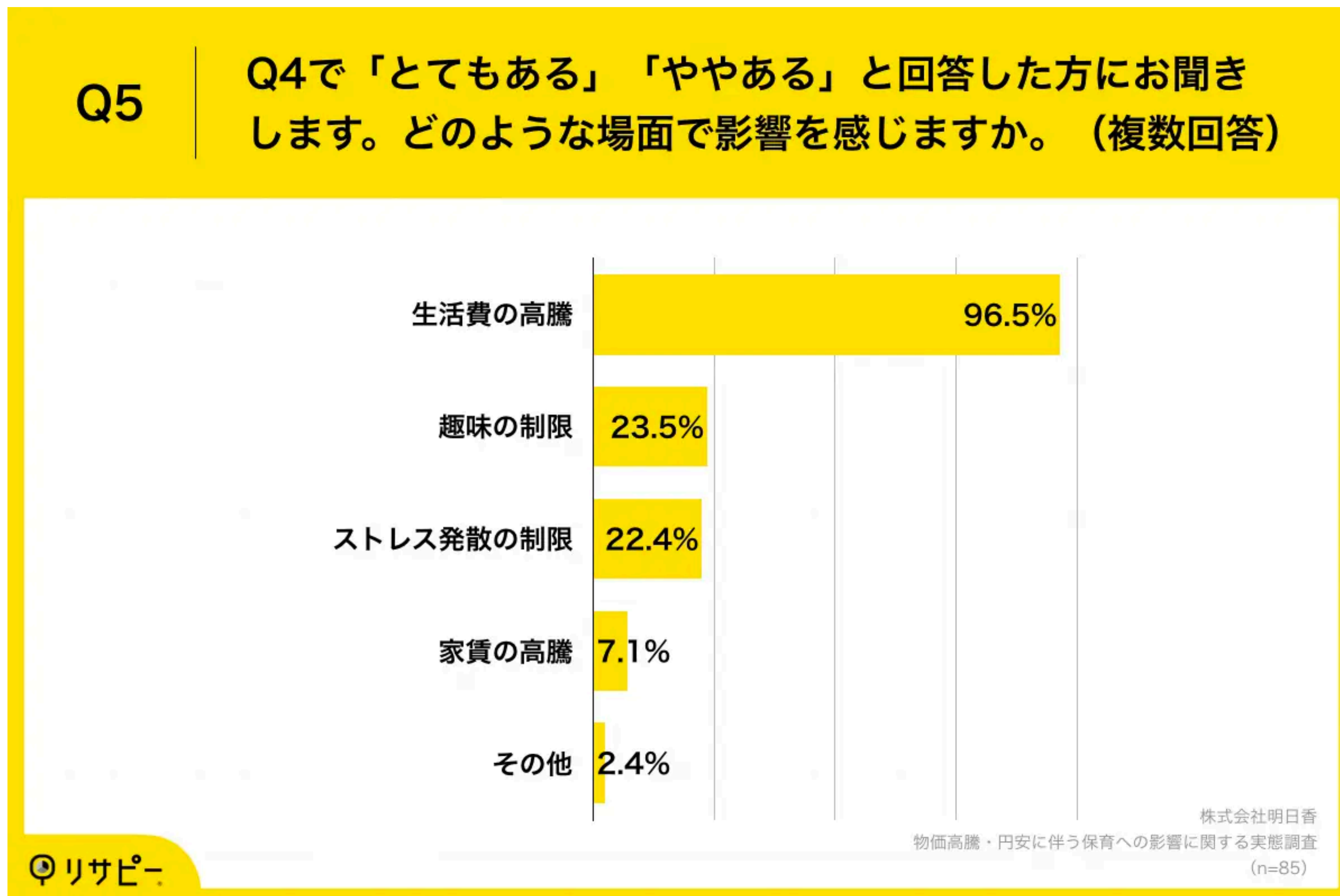
■保育士の79.5%が「円安や物価高騰」が自身の生活にも影響していると実感

「Q4.円安や物価高騰が、ご自身の仕事以外の生活環境に影響していると感じる場面はありますか。」（n=107）と質問したところ、「とてもある」が36.5%、「ややある」が43.0%という回答となりました。



■影響を感じる場面として、「生活費の高騰」が96.5%で最多

Q4で「とてもある」「ややある」と回答した方に、「Q5.どのような場面で影響を感じますか。（複数回答）」（n=85）と質問したところ、「生活費の高騰」が96.5%、「趣味の制限」が23.5%、「ストレス発散の制限」が22.4%という回答となりました。



■他にも「何でも値上げで生活しにくい」や「燃料費の高騰で行動が制限されることがふえる」などの声も

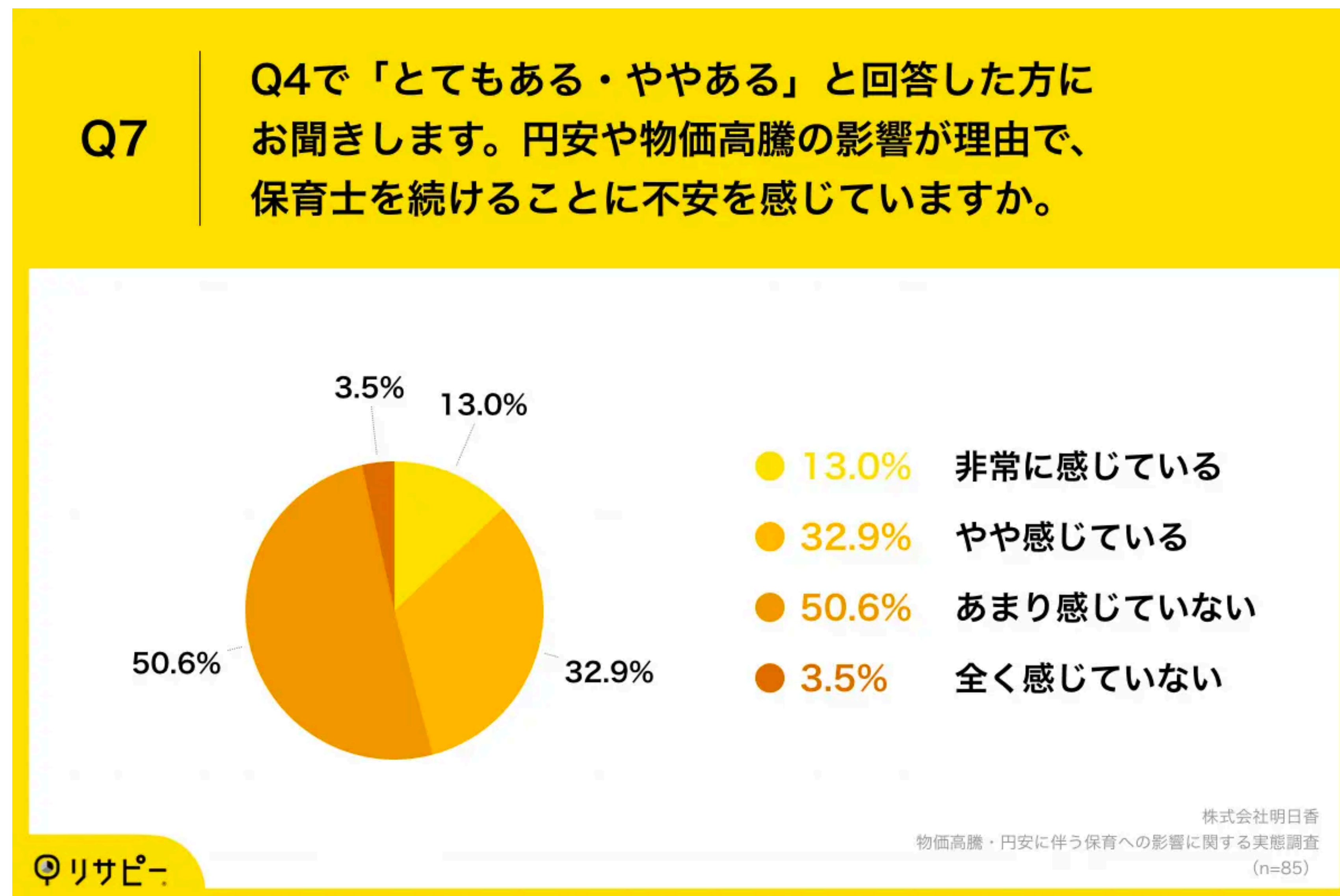
Q4で「とてもある」「ややある」と回答した方に、「Q6.どのような場面で影響を感じますか。自由に教えてください（自由回答）」（n=85）と質問したところ、「何でも値上げで生活しにくい」や「燃料費の高騰で行動が制限されることがふえる」など74の回答を得ることができました。

<自由回答・一部抜粋>

- ・52歳：何でも値上げで生活しにくい。
- ・68歳：燃料費の高騰で行動が制限されることがふえる。食品の高騰で家計への打撃が増える。
- ・53歳：買い物に行っても高くて買うのを躊躇することが増えた。
- ・36歳：何をかうにしてもどこに行くにしても値段が上がって、給料は低いままで生活が苦しい。
- ・33歳：野菜が中々買えない。
- ・32歳：外食を減らし、食費もプライベートブランドのものを選んだり嗜好品を買うことが減ったりした。
- ・32歳：食費や生活費、子どもがいるのでオムツなど値上がりして節約してるつもりだが出来てるのかわからない。車通勤で、ガソリン代も値上がりし金銭面がしんどい。
- ・51歳：物価高騰に加え、社会保険料の増加は本当に、私はパート勤務なので、生活に直面しています。他のことでは我慢できるが、医療費はなかなか節約できない。

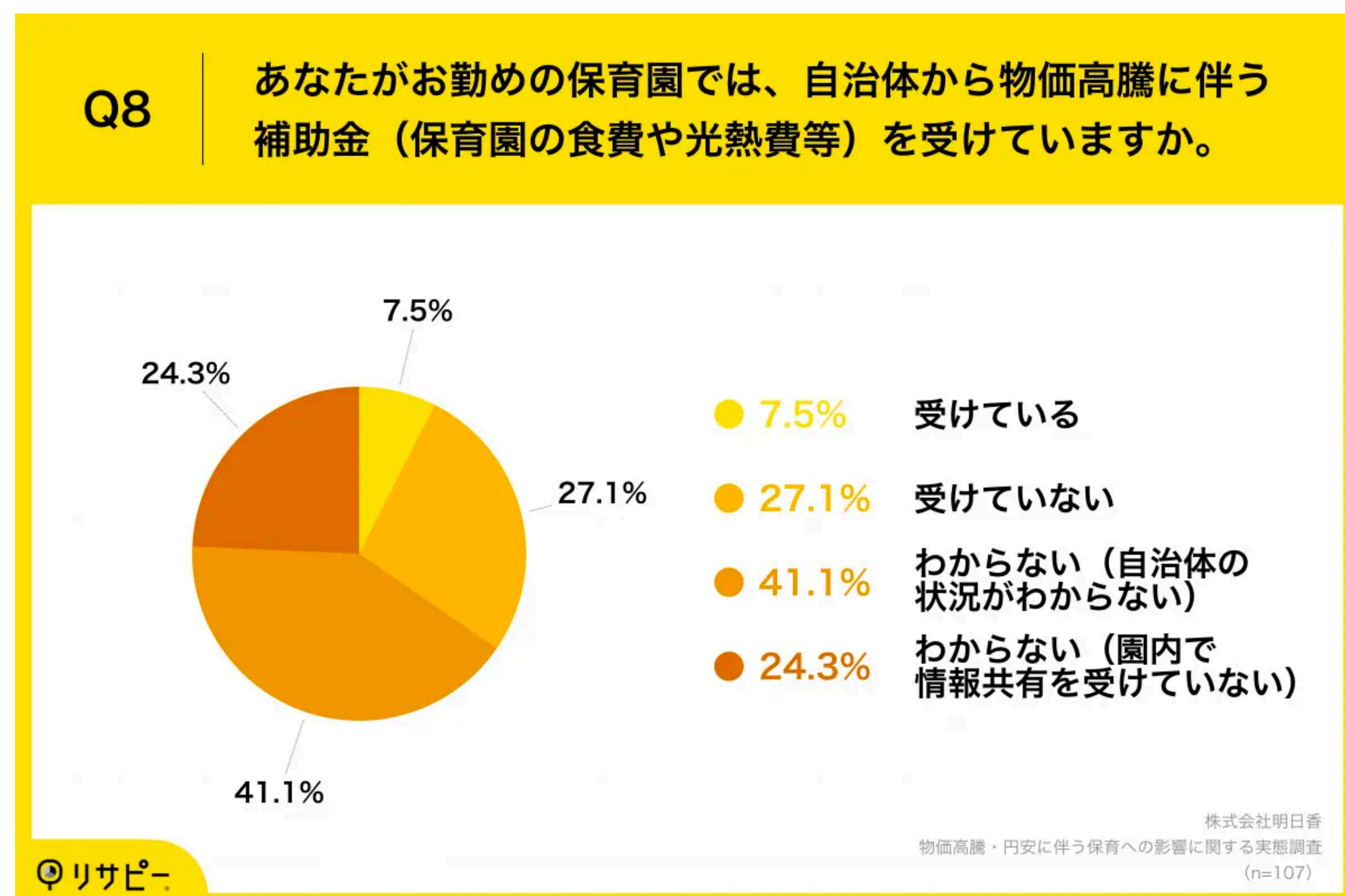
■円安や物価高騰の影響で、約半数が「保育士を続けること」に不安

Q4で「とてもある・ややある」と回答した方に、「Q7.円安や物価高騰の影響が理由で、保育士を続けることに不安を感じていますか。」(n=85)と質問したところ、「非常に感じている」が13.0%、「やや感じている」が32.9%という回答となりました。



■勤め先の保育園で「物価高騰に伴う補助金」の活用率はわずか7.5%

「Q8.あなたがお勤めの保育園では、自治体から物価高騰に伴う補助金（保育園の食費や光熱費等）を受けていますか。」(n=107)と質問したところ、「受けている」が7.5%、「受けていない」が27.1%という回答となりました。



今回は、保育士107名を対象に、物価高騰・円安に伴う保育への影響に関する実態調査を実施しました。

円安や物価高騰が続く中、保育士の55.1%は、「保育の質」への影響を実感しており、「教材・制作物素材の買い控え」や「園内の節電」などが理由として挙げられました。さらに、「食材の高騰で給食メニューが変わった」や「猛暑の時でも節電呼びかけ」により影響を感じたとの意見も多く、円安や物価高騰による影響は保育の現場にまで及んでいることが伺えました。

なお、円安や物価高騰により「保育士自身の生活」も困窮しているという悲痛な声も多数挙がっており、保育士としての仕事の継続に対する不安も浮き彫りとなりました。このような状態が慢性化することは、保育士の人材不足が加速する要因ともなります。保育の質を上げるためには、食材費や光熱費といった運営費に係る補助以外に、保育士への生活を守るためのサポートが求められているのではないのでしょうか。

調査概要

概要

【定点調査2022】 マスク着用による保育の変化にまつわる調査

調査方法

IDEATECHが提供するリサーチPR「リサピー®」の企画によるインターネット調査

調査期間

2022年8月29日～同年9月2日

有効回答

現役保育士95名

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。

※比較調査：2021年8月18日～2021年8月25日 | 「マスク着用による保育の変化にまつわる調査」 | <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000052.000043389.html>

【定点調査2022】 マスク着用による保育の変化にまつわる調査

TOPIC 01 マスク着用による懸念、「表情が伝わらない」が**64.8%**で最多、前年と比べ「声が通りにくい」という懸念は「**14.9ポイント**」ダウン

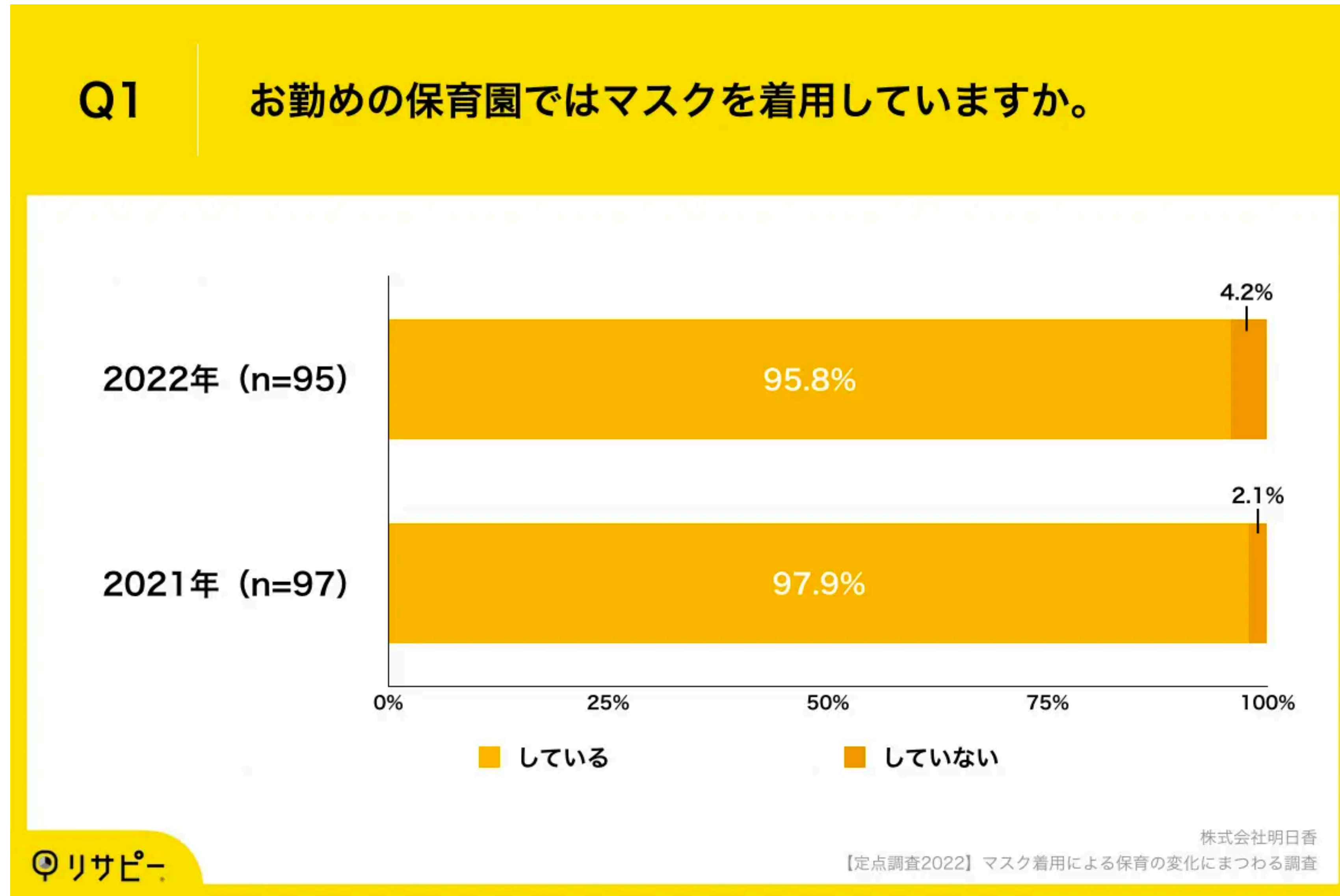
TOPIC 02 昨年に引き続き、**31.9%**がマスク着用での子供とのコミュニケーション「不十分である」と悩みを実感

TOPIC 03 コミュニケーションの工夫として、**約半数**が「喜怒哀楽に合わせて声を使い分けている」と回答



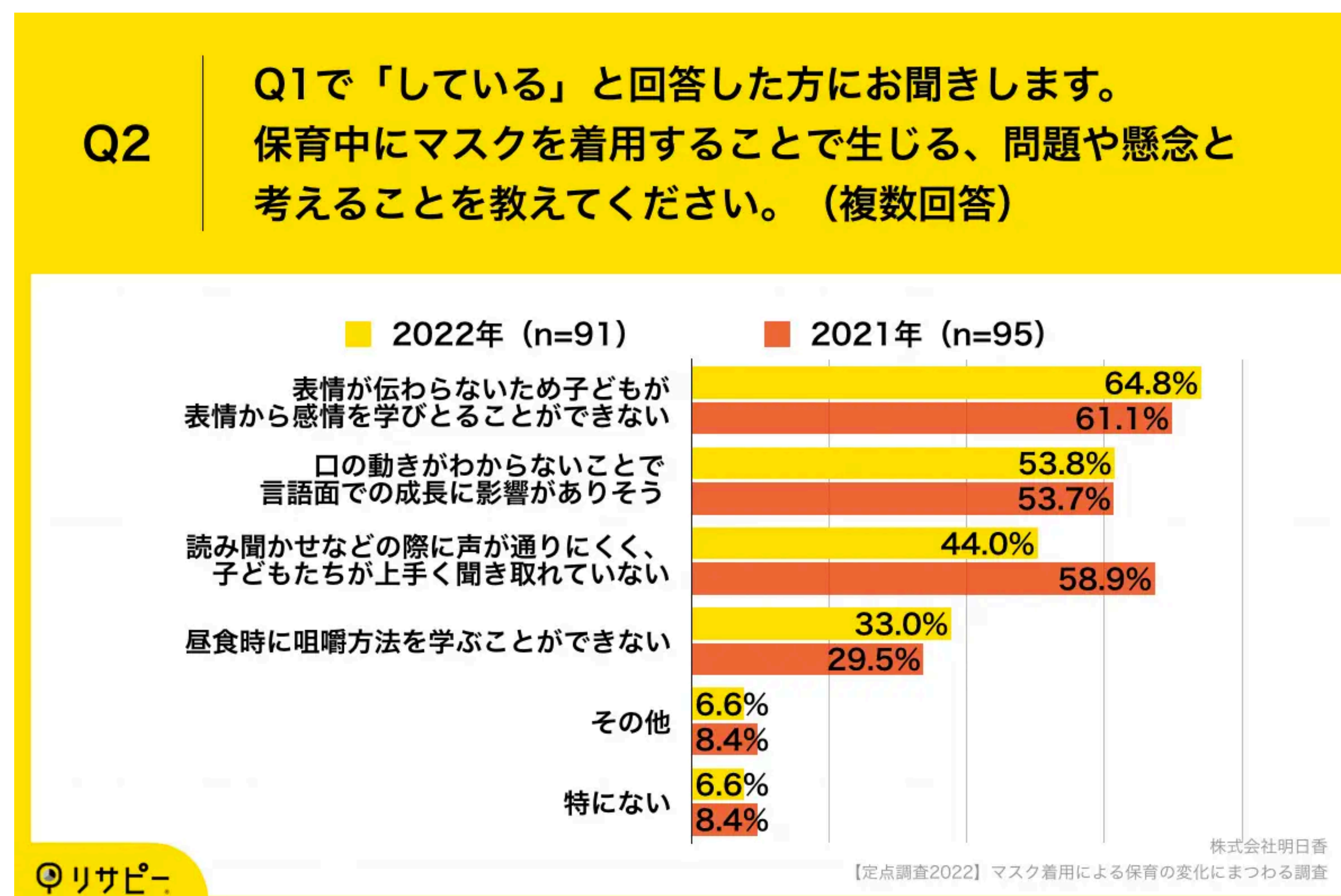
■保育士の95.8%が、保育園で「マスク」を着用

「Q1.お勤めの保育園ではマスクを着用していますか。」(n=95)と質問したところ、「している」が95.8%、「していない」が4.2%という回答となりました。



■マスク着用による保育上の懸念、「表情が伝わらない」が64.8%で最多

Q1で「している」と回答した方に、「Q2.保育中にマスクを着用することで生じる、問題や懸念と考えることを教えてください。(複数回答)」(n=91)と質問したところ、「表情が伝わらないため子どもが表情から感情を学びとることができない」が64.8%、「口の動きがわからないことで言語面での成長に影響がありそう」が53.8%、「読み聞かせなどの際に声が通りにくく、子どもたちが上手く聞き取れていない」が44.0%という回答となりました。



■他にも「子どもも保育者も共に息苦しさがある」や「危険なことなど即座に伝わりにくい」などの心配も

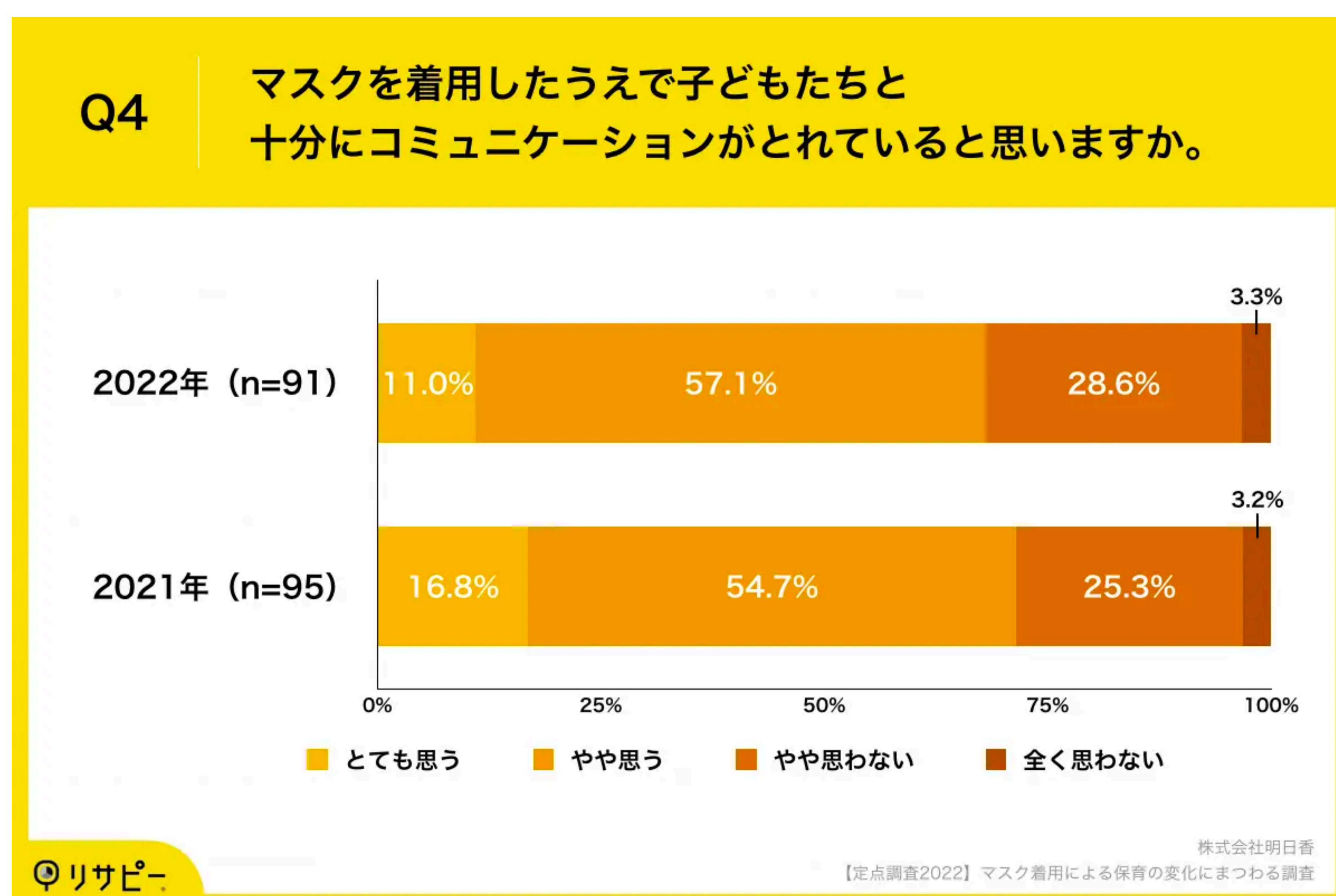
Q1で「している」と回答した方に、「Q3.Q2で回答した内容以外にマスク着用で生じる問題や懸念があれば教えてください。（自由回答）」（n=91）と質問したところ、「子どもも保育者も共に息苦しさがある」や「危険なことなど即座に伝わりにくい」など60の回答を得ることができました。

<自由回答・一部抜粋>

- ・49歳：子どもも保育者も共に息苦しさがある。
- ・29歳：大きい声を出さないと通りにくいため、危険なことなど即座に伝わりにくい。
- ・36歳：声が通らないので、大きな声を出しすぎて喉の痛みが頻繁にある。
- ・48歳：外遊びの時は、暑さでムレる。
- ・40歳：夏場は特に自分が苦しくなり、子どもから一瞬目を離してしまうことがある。
- ・36歳：熱中症。
- ・57歳：コミュニケーションが取れない。
- ・49歳：リズム楽器を演奏する際の呼吸のタイミング。

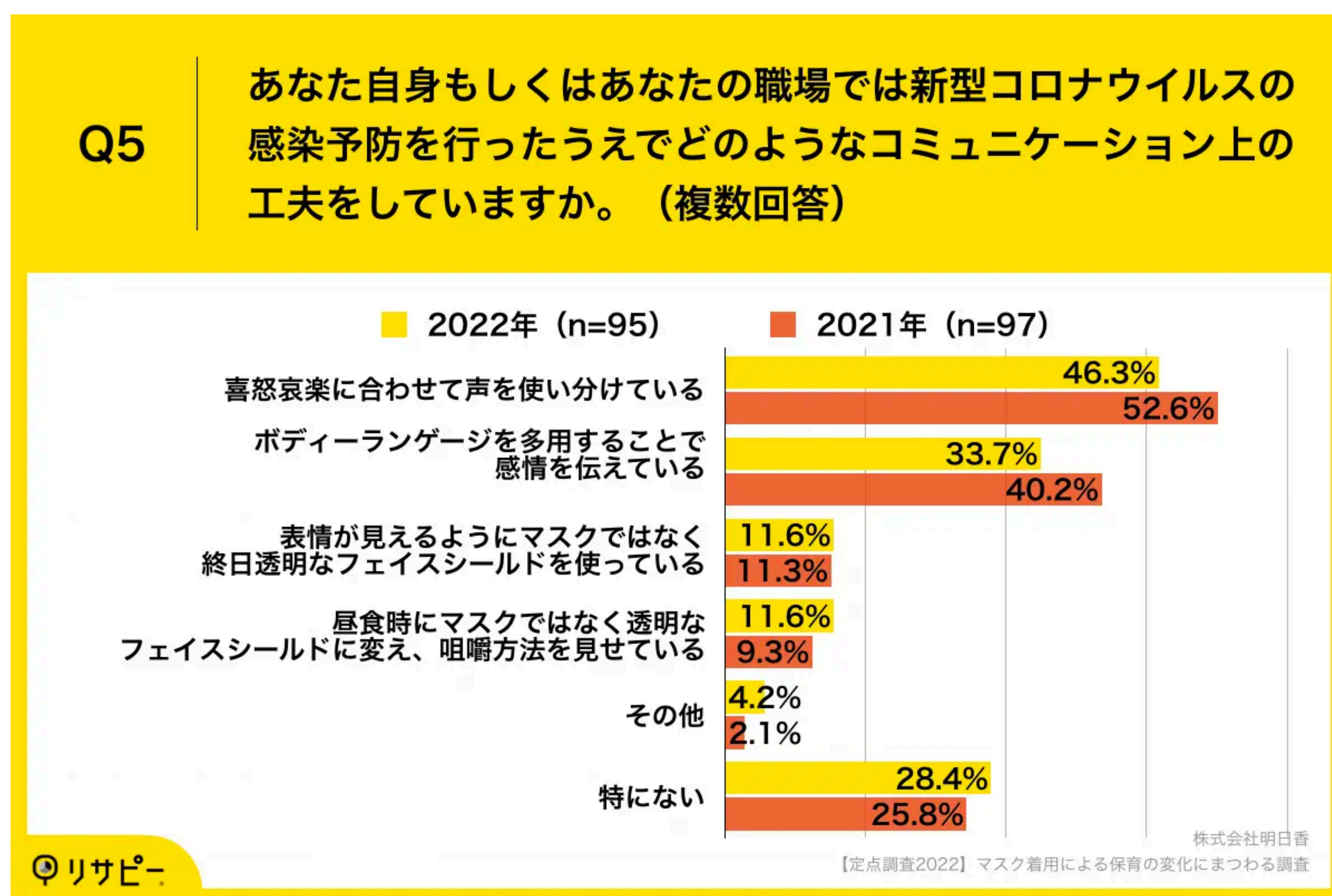
■31.9%が、マスクを着用した上で子どもとのコミュニケーションについて「不十分」と悩みを実感

「Q4.マスクを着用したうえで子どもたちと十分にコミュニケーションがとれていると思いますか。」（n=91）と質問したところ、「とても思う」が11.0%、「やや思う」が57.1%という回答となりました。



■コミュニケーションの工夫として、約半数が「喜怒哀楽に合わせて声を使い分けている」と回答

「Q5.あなた自身もしくはあなたの職場では新型コロナウイルスの感染予防を行ったうえでどのようなコミュニケーション上の工夫をしていますか。（複数回答）」（n=95）と質問したところ、「喜怒哀楽に合わせて声を使い分けている」が46.3%、「ボディーランゲージを多用することで感情を伝えている」が33.7%という回答となりました。



■他にも「表情で感情を伝えるのではなく、言葉でもしっかりと思いや気持ちを伝える」や「イラストを用いた説明を増やし、視覚からの学びを促す」という工夫も

「Q6.Q5で回答した内容以外にコミュニケーション上で工夫していることがあれば教えてください。（自由回答）」（n=95）と質問したところ、「表情で感情を伝えるのではなく、言葉でもしっかりと思いや気持ちを伝える」や「イラストを用いた説明を増やし、視覚からの学びを促す」など42の回答を得ることができました。

<自由回答・一部抜粋>

- ・49歳：表情で感情を伝えるのではなく、言葉でもしっかりと思いや気持ちを伝える。
- ・45歳：イラストを用いた説明を増やし、視覚からの学びを促すようにしている。
- ・41歳：目で表情を伝える。
- ・48歳：声のトーンを上げる。
- ・57歳：絵カードなどを利用する。
- ・33歳：子どもとの目線を合わせてコミュニケーションを取るよう以前より心掛けています。
- ・34歳：声を出して笑ったり、オーバーリアクションをする。
- ・31歳：なるべくゆっくり話す。

■表情が伝わらないことで生じた問題、「乳児の発語が遅くなっている気がする」や「保護者の顔を覚えられない」など

「Q7.マスクで表情が伝わらないことで実際に生じた問題があれば自由に教えてください。（自由回答）」（n=95）と質問したところ、「乳児の発語が遅くなっている気がする」や「保護者の顔を覚えられない」など50の回答を得ることができました。

<自由回答・一部抜粋>

- ・52歳：保護者の顔を覚えられない。
- ・38歳：歌を歌っていても口を動かすことが伝わらない。
- ・45歳：乳児の発語が遅くなっている気がする。保護者とのコミュニケーションが難しい。
- ・40歳：0歳児への食事指導がむずかしい。もぐもぐは言葉だけではなかなか伝わらない。
- ・50歳：悲しそうな顔など、微妙な表情を伝えたい時にうまく伝わりにくい。
- ・57歳：注意しても、ケロっとしている。こちらも疲れて話す気がなくなる。
- ・33歳：口や鼻、歯を教えることが難しい。

今回は、現役保育士95名を対象に、【定点調査2022】マスク着用による保育の変化にまつわる調査を実施しました。

まず、マスク着用による問題や懸念について伺うと、前年と同じく「表情が伝わらない」が64.8%で最多でした。これは、昨年に引き続き、マスクを着用した上での子どもとのコミュニケーションが「不十分」と、約3割の保育士が実感していることから読み取れます。

そこで、実施しているコミュニケーションの工夫について伺うと、約半数が「喜怒哀楽に合わせて声を使い分けている」ことが分かり、他にも「表情で感情を伝えるのではなく、言葉でもしっかりと思いや気持ちを伝える」や「イラストを用いた説明を増やし、視覚からの学びを促す」など、多くの保育士がさまざまな工夫を凝らしている実態が明らかになりました。

脱マスクが少しずつ浸透する中、保育現場での脱マスクはまだまだ難しい現状が明らかになりました。待機児童のゼロ化が進む一方、保育利用児童数の減少により保育現場は様々な課題を抱えることになりました。ですが、何よりも子どもたちの健全な育成を目指す姿勢とプロ意識の高さが改めて伺えた調査となりました。

「子ねくとラボ」について



「子ねくとラボ」は、「子ども + Nursery（保育） + Education（教育）・ Entertainment（エンターテインメント） + Creation（創造） + Trend（トレンド）」の要素から構成された、子どもと未来、そしてすべての人がConnect（繋がり、結びつき）する保育研究プロジェクトです。子育てや保育に関する「調査レポート」や「ニュース/記事」、また「子ねくとラボ」が提供しているサービスについて発信しております。

お問い合わせ

会社名

子ねくとラボ（運営：株式会社明日香）

TEL

03-6912-0015

Mail

seminar-info@g-asuka.jp

WEB

<https://konnnect-labo.jp/>

会社住所

112-0002 東京都文京区小石川5丁目2番2号 明日香ビル3F



子ねくとラボ



子どもの未来を考えるサイト

<https://konnnect-labo.jp/>